

# 日本バレーボール学会第 22 回大会報告

日本バレーボール学会第 22 回大会が、3 月 11 日および 12 日の 2 日間にわたり国士舘大学世田谷キャンパスで開催されました。11 日は公認指導者研修会としての参加者を合わせ、約 130 名の参加者があり、盛会となりました。

## 【特別講演】

特別講演は、2017 年 11 月で 100 周年を迎える国士舘大学学長である佐藤圭一氏に、国士舘大学が社会的貢献に果たす役割と責務について講演していただきました。昔の質実剛健という国士舘大学のイメージが、最近では大きく変わっており、女子学生も増えキャンパスも華やかになっていること、おしゃれな大学フリーペーパーが発行されていること等が紹介されました。また佐藤氏が若い頃熱中して見ていたというミュンヘン男子バレーボール金メダルの背景について、熱い思い出を含めて話していただきました。

## 【基調講演】

基調講演は日本バレーボール協会会長、木村憲治氏に、「JVA2050 年構想」というテーマで講演していただきました。現在多くの課題を抱えている日本のバレーボール競技が、2020 年の東京五輪での活躍はもちろん、その後の長期的な「あるべき姿」を定めて進んでいく必要があること、その中で日本バレーボール協会と日本バレーボール学会が共同する体制を整えていく意義等について話していただきました。また会場にミュンヘンオリンピックの金メダルを持ってきてくださり、回覧していただきました。

## 【シンポジウム】

今回のシンポジウムは「2016年リオ五輪を総括し、2020東京五輪への強化を考える」というテーマで行われました。シンポジストは以下の5名です。

矢島 久徳氏（JVA 男子強化委員長）

宮下 直樹氏（JVA 女子強化委員長）

亀ヶ谷 純一氏（JVA 指導普及委員長）

宮嶋 泰子氏（テレビ朝日スポーツコメンテーター）

山口 隆文氏（日本サッカー協会技術委員会指導者養成ダイレクター）

各シンポジストが発表した後、質疑応答に移りました。会場からは多くの手が上がり、東京五輪に向けた強化体制、方針についての質問に、シンポジストそれぞれの立場から回答や個人的な見解が示されました。



## 【一般研究発表】

一般研究発表では 23 題のポスター発表があり、体育館の壁一面に貼られた研究発表ポスター前で、2 時間にわたって熱心な質疑応答が行われていました。



## 【オンコートレクチャー】

12日午後からは体育館においてオンコートレクチャーが行われました。講師の中央大学男子バレーボール部監督の松永理央氏は、国士舘大学男子バレーボール部の選手達を実際に指導しながら、前半はブロック指導について、後半はサーブ練習法について紹介されました。ブロックではトータルディフェンスとしてのブロックの役割を考え、早めにブロックの手を出してブロックの空いているところにレシーバーが入れるようにすること等について実践を交えて説明がありました。またサーブでは、相手コート床面を区分して打ったサーブを得点化し、様々な制約を設けて合計25点を目指していく練習法が紹介されました。中央大学で実際に行っている練習ということで、石川選手や他の選手達の取組の様子が合わせて紹介されました。レクチャーの間や最後に設けられた質問の時間には多くの質問があり、それらの一つ一つについて松永氏から丁寧な回答をいただきました。





(文責：小川宏)